

第3学年 算数科学習指導案

令和6年6月27日 5校時

西麻植小学校 3年 17名

指導者 学級担任

1. 単元名 「重さ」

2. 指導にあたって

本学級の児童は、計算などの基本的な学習課題には進んで取り組むことができる。また、具体物を使った活動的な学習にも意欲的である。一方、発展的な学習になると、筋道を立てて考えることが苦手な児童もいる。

これまで「量と測定」領域では、長さやかさについて普遍の単位の必要性や有用性について考えたり、計器の使い方を学習したりしてきた。本単元でも、直接比較や任意単位による算数的活動を通して、普遍単位の意味について考えたり、秤等の計器の使い方を学習したりする。重さは、ものの見かけだけでは捉えられない大きさであり、具体物を手に持ったり体に身に付けたりして、重さを実感しながら測定することで重さの概念を理解できるようにする。

本時では、児童にとって身近な野菜を題材とし、重さを予想させる。大きさや形の違う野菜を用意することで大きくても軽い、小さくても重いなど見かけだけでは捉えられないことを理解させる。そして、具体物を手で持ち上げるなどの体験を通して基本的な量の感覚を豊かにすることや、秤を使い正しく量ることで、重さを数字で表せるよさに気づかせたい。また、食育アンケートから野菜が苦手な児童が多いことが分かった。そこで、1日に必要な野菜の量の目安を知らせることで、自身の生活を振り返り野菜を食べようとする意識につなげたい。

3. 単元目標

ものの重さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して秤で重さを量ることや単位を適切に用いて表現することができるとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとしている。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秤の使い方や、重さの単位「g」、「kg」、「t」のよみ方・かき方・相互関係を理解している。また、重さの加減計算ができる。	重さの普遍単位の必要性に気づき、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりしている。単位の関係性を統合的に考察している。	重さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して重さにあわせて適切な計器や普遍単位を使うことや重さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。

5. 食育の視点

○1日に必要な野菜の量の目安を知り、野菜を食べようとする意欲をもつ。(心身の健康)

6. 指導計画(全8時間)

第一次 重さの表し方・・・6時間(本時 2時間目)

第二次 たんいの関係・・・1時間

第三次 まとめ・・・1時間

7. 本時の学習（第1次）

（1）目標 秤を使って重さの測定ができる。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の支援	評価規準（評価方法）
5分	1. トマト・ブロッコリー・玉ねぎ・茄子の4種類の野菜の重さの順位を予想する。	・ 重い順に予想し順位付けさせる。 ・ 見かけだけでは、はっきりしないことを共有することにより、計器の必要性を感じられるようにする。	
	野さいの重さをはかりではかろう。		
	2. 本時のめあてを確認する。	・ 既習の秤の使い方や目盛りの読み方を確認し、活動の見通しがもてるようにする。	
20分	3. 班で野菜の重さを量る。 ホワイトボードに結果を書く。	・ 野菜を手を持ち体感的に捉えさせる。 ・ 秤の目盛りを、交代で見て全員が確認するようにする。 ・ ホワイトボードに結果を書き順位を決定する。	秤の目盛りを正しくよみ重さを量ることができる。 （発言・観察・ワークシート）
5分	4. それぞれの班の結果を知る。	・ 正しく量れたかを確認する。	
15分	はかりを使うと重さをせいかくにはかることができる。		
	5. 1日に必要な野菜の量を知り、本時の学習の振り返りをする。	・ 1日に必要な野菜の量を提示し、実際に持たせる。 ・ 量感を身につけておくよさに気づかせる。	

（3）評価及び指導

「十分に満足できる」と判断される状況	秤を使って重さを正しく測定し、数字で表すことのよさに気づいている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	1目盛りが何gになっているかを確認めるよう助言し、目盛りを順に読ませる。